

「教育は人が幸せに生きるためにあります」という基本的な考え方のもと、「MIRAI SCHOOL いたばしー教育ビジョン2035」及び「MIRAI SCHOOL いたばしーアクションプラン2028」を踏まえ、本校で学ぶ生徒、保護者、地域の実態に応じて、願い・期待に応える学校を目指す。

M 自分らしく進むチカラ

ありのままの自分を受け言えられることができ、仲間ともに成長し、未来に進む原動力をもつことができるチカラ

I 認め合って生きるチカラ

個性や立場が違って、人の話に耳を傾け、力を合わせて問題を解決できる。「共生」へのチカラ

R つながり助け合うチカラ

まわりの人を助けるために、社会に貢献するために、進んで手を貸し、取り組むことができる。「貢献」へのチカラ

A 自ら行動を起こすチカラ

やるべきことを、自ら考え、判断し、自分から挑戦することができるチカラ

I ゼロから切り拓くチカラ

目に見えない課題に気づき、正解のない課題でもゼロからイチを創り出すことができる。「創造」へのチカラ

1 本校の教育目標等

○教育目標 「誠実」 「自主」 「健康」 (令和3年度改訂)

人権尊重の教育を基調に置いた教育活動を展開し、生徒一人ひとりが思いやりの心を持ち、自己肯定感を高め、主体的に学習活動取り組む中で、社旗の変化に対応できる力を身に付けることができるよう、次のような生徒の育成をめざす。

- 誠実で思いやりがある心身ともに健康な生徒
- 自主・自立の精神と知性・感性に富んだ生徒
- 自らを律し、共にたくましく生きる生徒

○「知る」「考える」「対話する」(合意形成・自己決定)「行動する」

授業や読書、本、パソコンなどから知識、体験や挑戦から得られた学び、自分自身についてなど様々なことを知り、視野を広げます。それらの生きて働く知識を基に自分自身で「問い」を立て深く考えたり、「もし…なら」と仮説を立て考えたりしながら、自分の納得できる解答を考え、自分の意見を持つことです。そして、自分の意見を伝え合い、他の人の意見を傾聴し、さらに考え、自己調整しながら、思考や行動を修正しながら、合意形成を図り、自ら選択し、挑戦したり、課題解決し切り拓いたりできる生徒の育成をめざす。

2 目指す学校 ～誰もが幸せを感じられる学校～

- 生命や安全が確保され、安心できる学校
- 誰一人取り残さない多様な学びのできる学校
- 可能性を引き出し、「好き」を育み、「得意」を伸ばし、自分らしく自己実現できる学校 (M)
- 自他を尊重し、認め合い、励まし合い、支え合い、高め合える学校 (I)

- 保護者、地域、学校がつながり、「チーム赤一」として互いに支援し合える学校 (R)
- 社会的な課題を見つめ、目標をもち、課題解決に向けてできることを考え、初発の思考や行動を自ら起こすこと(挑戦)ができる学校 (A)
- 思考・判断・表現につながる生きて働く知識・技能を身に付け、深い学びのできる学校 (I)
(自己調整学習、個別最適な学び、協働的な学びの一体的に充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現のできる学校)

(2) 目指す生徒像

- 自他の可能性、「好き」、「得意」を見付け、伸ばすことができる生徒 (M)
- 心身ともに健康で、自他を尊重し、認め合い、励まし合い、支え合い、高め合える生徒 (I)
(多様な他者と協働できる生徒)
- 自分の意見を表現し、多様な他者と対話し合意ができる生徒 (I)
- 地域や学校等のボランティア活動に積極的に参加する等他者貢献できる生徒 (R)
- 目標をもち、自ら考え、失敗を恐れず挑戦する生徒 (A)
- 自ら課題を見付け、自ら考え、伝え、判断し、主体的に粘り強く切り拓き、自己指導能力を身に付けた生徒 (A I)
- 分からないことやできないことにも諦めずに自己決定し、主体的に根気強く取り組み、自己調整力を身に付け、切り拓いていける生徒

(3) 目指す教師像

- 課題の本質を見抜く力と危機管理意識の高い教師
- 一人ひとりの好きや得意、可能性を引き出し、伸ばすことのできる教師 M
- 興味・関心が広がる教材・学習方法の選択を促進できる教師 M
- 自分の意見をもて、多様な他者と対話や合意ができる取組のできる教師 I
プロアクティブ、リアクティブな生徒指導のできる教師 I
- チーム赤いの一員として、生徒・保護者・地域とつながり、学校を運営する教師 R
- 生徒の主体的な学びに寄り添い、生徒の声を受容・傾聴し、迅速に的確な支援ができる伴奏者として役割を果たす教師 A
- 一人一台端末を日常的に活用でき、自由進度学習を取り入れながら、個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、主体的・対話的な深い学びを実現できるよう授業革新にせる教師
- 教員としての基礎基本を身に付けた教師(教職に必要な素養)
- 誰一人取り残さないために、多様な学びを推進できる教師
- 生成 AI の利活用による授業革新及び授業働き方改革のできる教師

(4) 目指す地域、保護者との関係

- 地域、保護者に開かれた学校
 - 地域、保護者に支えられる学校
 - 地域、保護者を支える学校
- *コミュニティ・スクールとして、地域の考えを取り入れた学校運営

【今年度の重点目標と主な方策】

- 1 豊かな心、共感的な人間関係の育成（生命尊重・人権尊重教育の充実、思いやりと感謝の気持ちの育成）
 - (1) すべての教育活動において、自他の個性、違いを認め合い、尊重し、励まし合い、支え合い、自他の生命を大切にする指導の徹底（親和的な学級づくり、学年づくり）
 - (2) 一人ひとりの「好き」や「得意」「可能性」を引き出し、伸ばす支援
 - (3) 一人一役でより具体的に褒め、支援
 - (4) 「いじめはいかなる理由があってもいけない」
道徳の授業、朝礼等の講話、生徒会の取組、日常的な声掛け、ふれあいアンケートによる把握予兆行動や問題行動を見逃さずに諸課題を発見し、対応
 - (5) 生命の安全教育の推進
「SOSの出し方教育」「デートDV」等
 - (6) 人権尊重教育の充実（性の多様性を含めて人権感覚を磨く指導）
LGBTQの理解、セーフティ教室、SNS東京ルール及び板橋SNSルール、家庭ルールの徹底

- 2 確かな学力の定着・向上
 - (1) 板橋区授業スタンダード及び授業スタンダードSに基づいた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業革新
 - ・学習活動や学習課題、学習方法等を自己選択できる授業の推進
 - ・一人一台端末の活用及び自己調整学習、個別最適な学び、協働的な学びの充実
 - ・自己調整を図り、家庭での自発的な学習の習慣化
 - ・小单元ごとに100字程度の振り返り
 - ・根拠を基に論理的に表現する練習
 - ・読書の習慣化、朝の読書時間の確保
学校図書館や電子図書館の活用
 - ・探究的な学習の充実
 - ・7年生における起業家教育
地域とつながる起業家教育の実施
 - ・キャリア教育の充実
「キャリアパスポート」の活用、職場体験学習
 - ・情報活用能力の育成
 - ・生成AIの利活用、AIドリル「すららi」ドリルの活用
 - (2) 読み解く力の育成
 - ・教科書等の文章や図表等から読み取ったこと（認識 Input）を基にして、分かったこと、考えたこと（思考 Think）を相手に伝える力（表現 Output）
→文書や資料から情報を読み取り、根拠を明確にして論理的に自分の考えを書く

- 3 特別活動や体験的な学習（奉仕活動等）の充実、自己指導能力の育成
 - (1) 生徒の主体的な企画や運営の場の設定
自己有用感、自己肯定感の向上
 - (2) 一人一役、一人一作品

4 健やかな体の育成

(1) 体力テストの分析により、補強運動の推進

(2) 食育の推進

毎日の「給食NEWS」や給食だより、家庭科の授業

5 学校・家庭・地域の連携・協働し、共に歩む学校づくりの推進

(1) コミュニティ・スクールとして生徒の成長の支援を家庭や地域、学校支援地域本部と連携・協働

(2) 地域人材の活用

6 生活指導の充実（自己指導能力の育成）

(1) 生徒指導の4視点

自己存在感の感受 = 「自分も一人の人間として大切にされている」、自己有用感を伴う自己肯定感を育成

← 「指導の個別化」「学習の個別化」により個別最適な学びのある授業
「分かる、できる、楽しい」と実感できる授業

★共感的な人間関係の育成 = 認め合い、励まし合い、支え合える学習集団づくり
自他の個性を尊重し、相手の立場に立って、考え、行動できる相互扶助的で共感的な人間関係づくり

★自己決定の場の提供 = 授業場面で自らの意見を述べる、観察・実験・調べ学習等を通じて自己の仮説を検証してレポートするなど、自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する等の体験

← 意見発表の場、生徒間の対話や議論の機会の設定、
生徒の学びのファシリテーターとしての役割を果たす

安全安心な風土の醸成 = 互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活が送れるような風土を教職の支援の下、生徒自らが作り上げる

← 学級は生徒の「心の居場所」に
を常に意識し、自己有用感を伴う自己肯定感の育み、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定（適切な解決方法を考え）して、他者を尊重しながら、自らの行動を決断して実行する「自己指導能力」の育成

「自分には良いところがある」と実感できる

(2) あいさつ指導

・立ち止まって大きな声でのあいさつできる指導

(3) 板橋区立学校校則の見直しに関するガイドラインに基づき、校則の見直しを図る。学級活動、生徒会活動を通して、生徒が主体的に校則の見直しに参画し、身近な課題に対し、自ら判断し行動できる力を育成する。

(4) 自己有用感を伴う自己肯定感を高める指導を実践

・努力や達成したことなど具体的な行動を褒める、良いところを具体的に褒める

行為を価値づけて子どもを褒める 自分の行動の価値を教えること前向きにがんばろうとする意欲向上につながる

(5) 組織対応の徹底

・報告、連絡、相談の徹底

- (6) 問題行動の未然防止及び問題行動発生時の対応の明確化（短期的対応、中期的対応、長期的対応）
- (7) 家庭との連携、情報共有
- (8) 関係機関（SC、SSW、子ども家庭支援センター、主任児童委員等）との連携
 - ・週一回の生活指導部会や支援委員会中心に関係機関との連携、組織的に未然防止及び問題解決
 - ・いじめ対策委員会（管理職、生活指導主任、教務主任、学習進路主任、GIGA部主任、養護教諭、特別支援コーディネーター、不登校巡回教員、学年主任(学級担任)、特別支援教室主任、で組織。SCとも連携)
 - ・いじめ重大事態等の対応
- (9) 危機回避能力・危機予知能力を育成
 - ・月一回の安全教育、避難訓練、不審者対応訓練等の充実
 - ・事故防止、危機管理意識
 - ・食物アレルギーへの確実な対応（年一回、校長、養護教諭、栄養士、保護者、生徒との面談）

7 生徒支援～居場所づくりの充実

- (1) 課題予防的生徒指導：課題早期発見対応（未然防止）
 - 寄り添った支援
- (2) 情報共有
 - 家庭との連絡、相談、管理職への報告
- (3) 相談環境の推進
 - オンライン面談、相談ポストの設定
- (4) 居場所づくりの充実

8 小中一貫教育

- (1) 各教科において、児童・生徒の学び、教師の指導における課題を明確にし、その解決に向けた重点的な取組を決め、年間を通して継続的に取り組む。（一教科一取組）
- (2) 「家庭学習のすすめ」を作成し、9年間継続した家庭学習の習慣を身に付けさせる。
- (3) 中学校での授業体験を実施する。

9 コミュニティ・スクール（iCS）、学校支援地域本部

- (1) 学校強みと弱みを保護者・地域にオープンにし、学校・家庭・地域（・生徒）がチームとなった体制づくりを推進し、学校教育への参画、支援
- (2) 年5回の委員会を開催し、積極的な学校実現を知らせ、学校運営のアドバイスを受け、学校経営に生かす

10 学校運営

- (!) Scrap & Build
 - ・伝統を尊重するが、根拠に基づいて継承
 - ・良い伝統の継承及び、新しく良いことは積極的に取り入れて、双方の融合
- (2) PDCAサイクル、(年2回の授業アンケート、学校評価)により早期改善
- (3) 報告・連絡・相談を徹底
- (4) 学校経営方針に基づいて、主幹教諭、主任教諭のリーダーシップにより、学年や分掌組織のチー

ムワークを大切に、教職員が一体となって目標に向かい、課題を共有し、個々の個性を発揮できるように、学校全体で組織的・機能的な学校運営を行うとともに、O J Tを通じた組織的な人材育成

- (5) 職務上の課題に対して一人に対応せず、学年・教科を問わず全教職員が当事者意識。
- (6) 経営参画意識をもち、短期間のR P D C Aサイクルによって、校務を正確かつ的確に処理
- (7) 職員室の机上整理を常に心がけ、サービス事故を防止する。
- (8) サービス事故は信用失墜として学校・教育活動全体におよび、個人の受ける処分では責任の取り切れるものではない。教育公務員としての自覚をもち、サービスの厳正に努め、信頼される教職員を目指す。
- (9) 保護者負担軽減と私費会計の適正な編成・執行

1 1 働き方改革

(1) 勤務時間に対する意識

- ・各自で定時退庁日を月2回以上設定 月45時間を超えない
- ・出張先での用務終了後、学校に戻ると勤務時間外になる場合は、直帰を基本
- ・夏季休業中の完全閉庁5日間設定

(2) 業務改善

- ・生成A I の利活用
- ・通知表における総合的な学習の時間の所見及び特別の教科道徳の評価記述は3学期のみ
- ・I C Tの活用（家庭との連絡のデジタル化、会議のペーパーレス化、打ち合わせ、など）
- ・定期考査最終日の部活動なし